

# 研究主任とカリキュラム・マネジメント

## 岡山市立芳田小学校

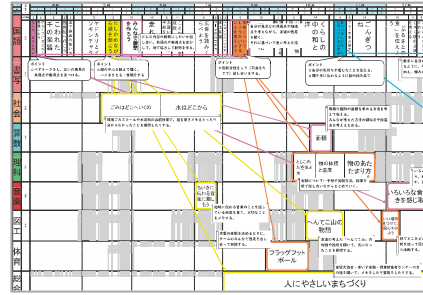
研究主題

ともに学ぶ喜びを感じる子供をめざして  
～かかわり合いを大切にし、  
主体的に学ぼうとする子供の育成～

### 研究基盤の構築－目指す子供像と研究主題の設定－

#### 取組①「単元配列表を活用した指導計画の見つめ直し」

■令和2年度作成の単元配列表を、子供の実態をもとに見直し、**実行可能なもの**としました。

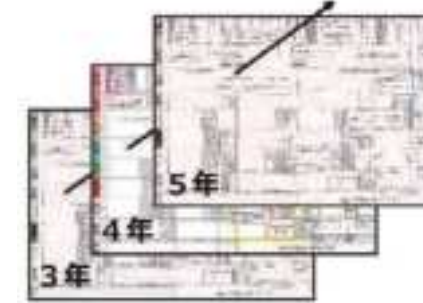


【単元配列表の精選】  
国語科の「話すこと・聞くこと」の領域と他教科との資質・能力のつながりを可視化する線を「育成を目指す子供の姿」をもとに精選しました。国語科で身に付けた力を他教科等で活用・発揮しました。

### <研究のポイント>

カリキュラム・マネジメントの充実に最も大切なのは、目指す子供像の共有です。芳田小学校では、児童の実態と課題から低・中・高学年で目指す子供像を設定し、より実態に応じたものにしました。また、国語科「話すこと・聞くこと」の領域で育成する資質・能力を他教科等のどこで活用・発揮するかを想定して授業づくりに取り組みました。

■学年を越えて身に付けるべき資質・能力を確認しました。

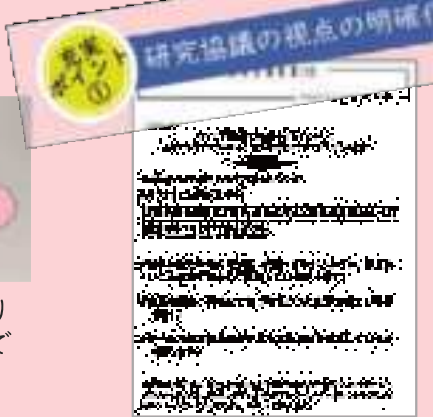
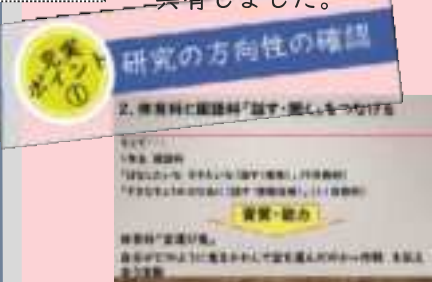


【単元配列表を重ねる】  
各学年で作った単元配列表で資質・能力の系統性を確認し、見直しをもった育成につなげました。

### 研究の推進

#### 取組②「校内研究のPDCA ～校内研修・研究授業・研究協議を効果的につなげる工夫～」

校内研修① ■授業者が提案した授業と研究の方向性とのつながりを説明し、**授業を参観する視点**と協議の視点を共有しました。



授業参観前に、協議の視点を明確に提示しました。

授業者による授業説明の後、本時の授業と研究のつながりや本時でねらう子供の具体的な姿を研究主任がスライドで説明しました。

事前の校内研修の工夫が、研究授業や研究協議における教職員の主体的な参加に結びつくんだね。

研究授業① ■全教職員が参観することができるよう時間を工夫しました。



研究協議① ■事前に提示した協議の視点を中心に、資質・能力を身に付けた子供の具体的な姿について話し合いました。



【グループ協議】  
学年団で実際の子供の姿をもとに協議した後、全体場で、協議内容を共有しました。



【指導助言】  
管理職の講評から、「目指す子供の姿」の達成状況と、今後の研究授業の方向性を再確認しました。

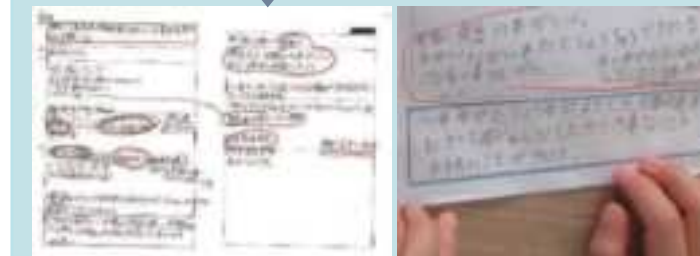
### 学校全体ですすめる校内研究

#### ■研究部の取組

校内研究が目指す子供像や学校教育目標の達成にどのように役立っているか常に意識的に立ち回り、研究授業や校内研修について話し合いました。

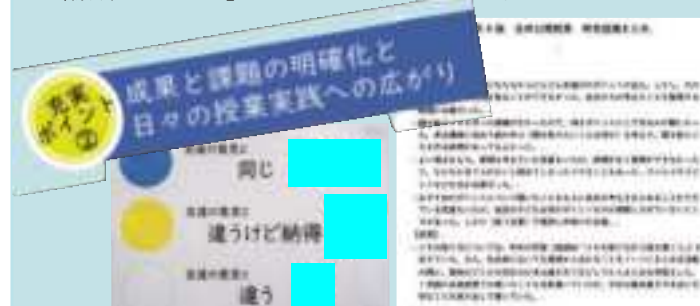
○学校全体で取り組むことは、研究部で考え、研究推進委員会で提案したうえで、年度初めの校内研修で全員で共通理解を図りました。

○【見直し】書く姿を大切にさせる。 【ノート】 必要で…必ず書く。 マージン、大切なこと…書く。 マージン、大切なこと…書く。 マージン、大切なこと…書く。 マージン、大切なこと…書く。	○【改善点】書く姿を大切にさせる。 【ノート】 書く順番は…動が先でまじり書き。 …順番は…最初から書く。 …順番のまじり書きの練習。 …まじり書きの練習。 マージン、大切なこと…書く。 マージン、大切なこと…書く。
---	---



学校全体で板書やノートの書き方が統一されているので、学年が変わっても、子供たちがめあてやまとめ、その時間の大切なポイントの書き方に迷いません。

○学年や学校全体で大切にしたい取組を共通理解できるように、当日の授業や研究協議で話題になったことを研究部で分担して整理し、「研究授業・研究協議のまとめ」として配付しました。



当日提案された取組や研究協議の成果が、他の授業や学年で活用されています。

# 研究主任とカリキュラム・マネジメント

## 岡山市立福田中学校

研究主題

学び合いによる学力と表現力の育成  
～協同学習の手法を取り入れて～

### <研究のポイント>

目指す子供像を設定し、すべての教職員が同じ授業スタイルで取り組むことで、「表現力」の育成を目指しています。  
このことが、教科・領域を超えて公開授業や研究協議に視点をもって参加し、日々の自分の授業に生かすサイクルを作っています。

### 研究基盤の構築—目指す子供像と研究主題の設定—

#### 取組「校内研究のPDCA ～1人1授業を支える研究主任の役割～」

■研究の方向性や取組を、校内研修と研究主任による授業の両方で共有しました。

**研究の方向性の確認**

福田中学校協同学習

★理論編★  
校内研修で、学校教育目標に基づいた目指す子供像や研究主題等の確認をしました。



★実践編★  
研修で学んだ内容を研究主任による授業を参観することで確認し、学校全体で大切にしたい取組を共通理解しました。

### 研究の推進

■参画意欲や授業改善のモチベーションを高める場づくりを工夫しました。

**研究協議の視点の明確化**

岡山学芸大学協同学習

項目	確認
1. 授業の目的・目標が明確か	
2. 学習内容が適切か	
3. 学習方法が適切か	
4. 評価方法が適切か	
5. 学習環境が適切か	
6. 学習態度が適切か	
7. 学習成果が適切か	
8. 学習意欲が適切か	
9. 学習態度が適切か	
10. 学習成果が適切か	
11. 学習意欲が適切か	
12. 学習態度が適切か	
13. 学習成果が適切か	
14. 学習意欲が適切か	
15. 学習態度が適切か	
16. 学習成果が適切か	
17. 学習意欲が適切か	
18. 学習態度が適切か	
19. 学習成果が適切か	
20. 学習意欲が適切か	
21. 学習態度が適切か	
22. 学習成果が適切か	
23. 学習意欲が適切か	
24. 学習態度が適切か	
25. 学習成果が適切か	
26. 学習意欲が適切か	
27. 学習態度が適切か	
28. 学習成果が適切か	
29. 学習意欲が適切か	
30. 学習態度が適切か	
31. 学習成果が適切か	
32. 学習意欲が適切か	
33. 学習態度が適切か	
34. 学習成果が適切か	
35. 学習意欲が適切か	
36. 学習態度が適切か	
37. 学習成果が適切か	
38. 学習意欲が適切か	
39. 学習態度が適切か	
40. 学習成果が適切か	
41. 学習意欲が適切か	
42. 学習態度が適切か	
43. 学習成果が適切か	
44. 学習意欲が適切か	
45. 学習態度が適切か	
46. 学習成果が適切か	
47. 学習意欲が適切か	
48. 学習態度が適切か	
49. 学習成果が適切か	
50. 学習意欲が適切か	
51. 学習態度が適切か	
52. 学習成果が適切か	
53. 学習意欲が適切か	
54. 学習態度が適切か	
55. 学習成果が適切か	
56. 学習意欲が適切か	
57. 学習態度が適切か	
58. 学習成果が適切か	
59. 学習意欲が適切か	
60. 学習態度が適切か	
61. 学習成果が適切か	
62. 学習意欲が適切か	
63. 学習態度が適切か	
64. 学習成果が適切か	
65. 学習意欲が適切か	
66. 学習態度が適切か	
67. 学習成果が適切か	
68. 学習意欲が適切か	
69. 学習態度が適切か	
70. 学習成果が適切か	
71. 学習意欲が適切か	
72. 学習態度が適切か	
73. 学習成果が適切か	
74. 学習意欲が適切か	
75. 学習態度が適切か	
76. 学習成果が適切か	
77. 学習意欲が適切か	
78. 学習態度が適切か	
79. 学習成果が適切か	
80. 学習意欲が適切か	
81. 学習態度が適切か	
82. 学習成果が適切か	
83. 学習意欲が適切か	
84. 学習態度が適切か	
85. 学習成果が適切か	
86. 学習意欲が適切か	
87. 学習態度が適切か	
88. 学習成果が適切か	
89. 学習意欲が適切か	
90. 学習態度が適切か	
91. 学習成果が適切か	
92. 学習意欲が適切か	
93. 学習態度が適切か	
94. 学習成果が適切か	
95. 学習意欲が適切か	
96. 学習態度が適切か	
97. 学習成果が適切か	
98. 学習意欲が適切か	
99. 学習態度が適切か	
100. 学習成果が適切か	

授業参観時にチェックシートを提示し、協議の視点を周知しました。

○第3学年 社会科  
単元名 価格の動きと経済



研究協議では、普段自分が困っていることを全員で意見交換したり、新しい発想や指導方法について良さを考えたりすることもできるようにしています。

○第3学年 保健体育科  
単元名 健康な生活と疾病の予防



社会科では、伝え合う場を活性化するための「ヒントカード」の効果について話し合いました。保健体育科の授業では、社会科の学習内容との関連性を生徒に伝えました。研究協議では、教科等横断的な視点が話題となりました。

■研究授業や研究協議での学びを成果や課題として整理し、日々の授業や次の研究授業に生かしました。

**成果と課題の明確化と日々の授業実践への広がり**

【研究協議】★外部講師編★  
事前に示した協議の視点を中心に、授業で見た子供の姿を基に話し合いました。その後講師の指導助言を得ながら再度研究授業を振り返りました。生徒が「表現」することができるようにするための工夫を共通理解し、全教員が日々の授業で実践しました。



【研究協議】★校内での学び編★  
2回目の研究授業・研究協議では、1回目の研究授業後の授業改善によってどのように子供の変容があったのかを捉えました。校内研究によって個々の教職員の資質能力が向上しつつあることを全員で実感しました。

研究協議で整理された課題に全教職員が取り組んだ成果が、生徒の積極的に話し合う姿に表れているね。



表現することにためらいがなくなった生徒が、研究授業を重ねる度に積極的に話し合うようになっていきます。



### 研究のまとめ

#### 次年度の改善プランを立てる

■全国学力・学習状況調査等各種調査結果やデータ等を活用し、全教職員が主体的に考えられるようにしました。

**成果と課題の明確化と日々の授業実践への広がり**

【校内研究のまとめ】  
検証する視点を「理由を書くこと」や「説明すること」等の「表現力の育成」と関係の深い項目に絞り、丁寧に考察し検証しました。

【次年度に向けた具体的な提案】  
研究のまとめを基に、次年度の校内研究の取組や流れを提案し、見通しをもてるようにしました。

### 学校全体ですすめる校内研究

#### ■管理職の取組

管理職は、社会に開かれた教育課程の実現のための、地域社会との連携を担っています。地域と積極的にコミュニケーションを図りながら、教育活動への協力・支援を得て、教育活動の質の向上を目指しました。

○「学校便り」等を利用して、学校の取組の成果や子供の成長、教職員の努力を伝えました。特に、目指す子供像の姿は逃さないように発信しました。



目指す子供像に近づく姿を捉えます。



○学校運営協議会において、校内研究について発信しました。



○教務主任、研究主任等に対し、校内研究の進捗管理・取組についての指導助言も行っています。



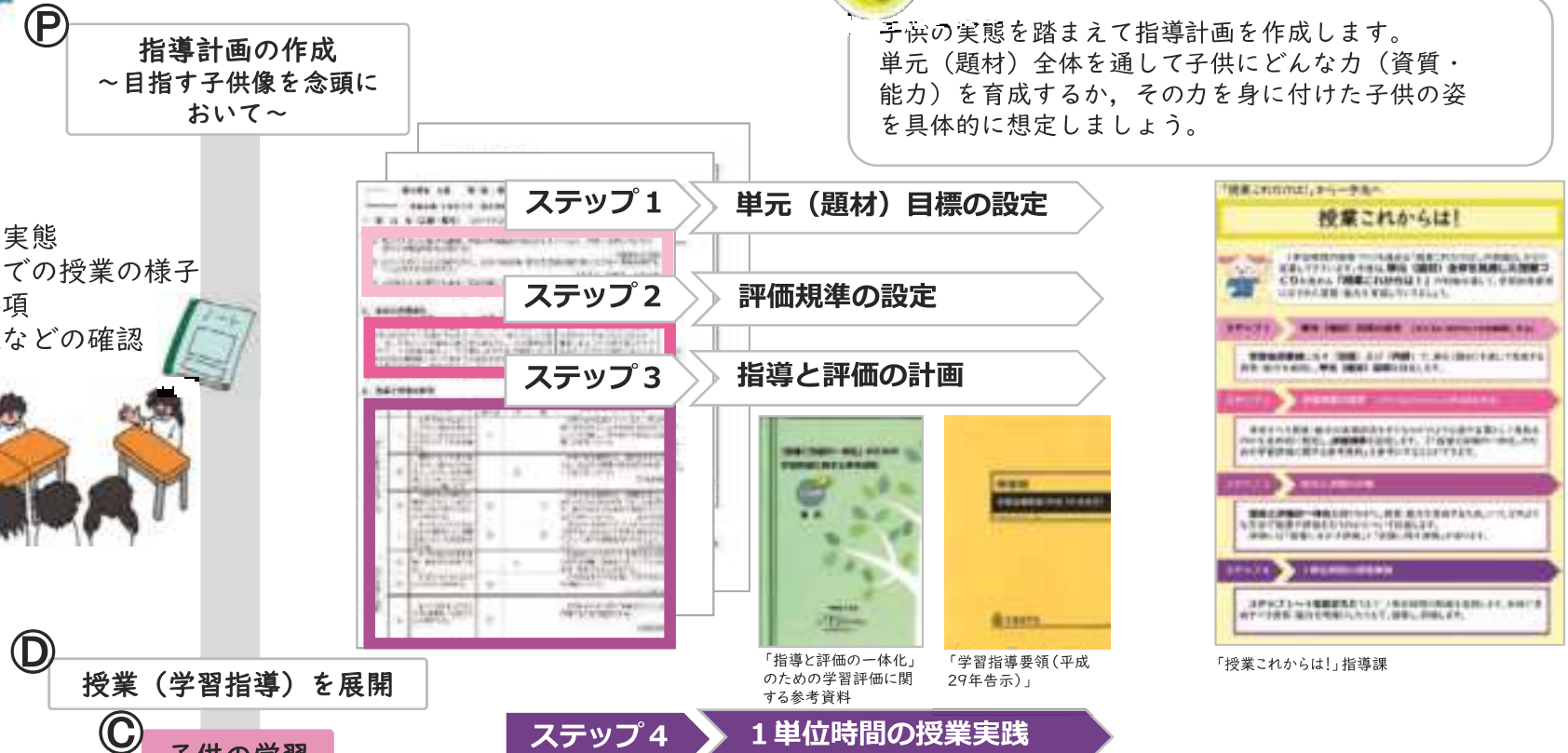
## 教員は子供の資質・能力の育成の担い手

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹!

子供の実態を踏まえた指導計画の作成

子供の実態を踏まえて指導計画を作成します。単元（題材）全体を通して子供にどんな力（資質・能力）を育成するか、その力を身に付けた子供の姿を具体的に想定しましょう。

- ・ 子供の实態
- ・ これまでの授業の様子
- ・ 既習事項
- ・ 系統性などの確認



**D** 授業（学習指導）を展開

**C** 子供の学習状況を評価

**A** 授業や指導計画の改善

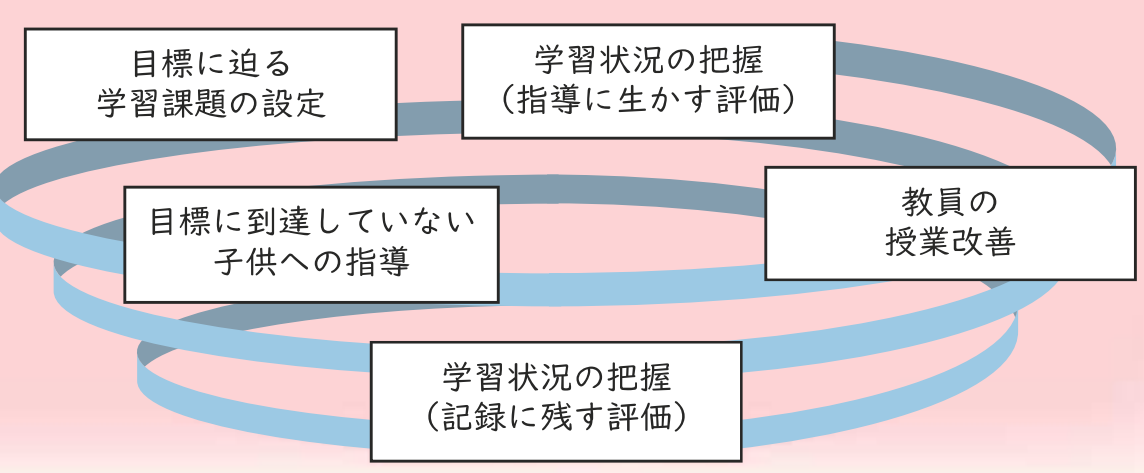
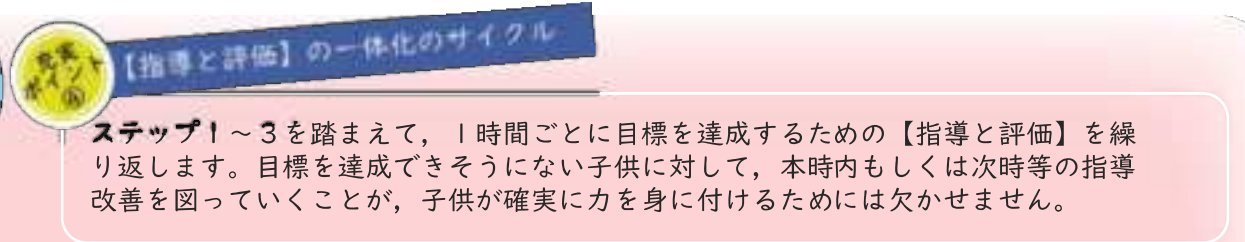
**D** 授業（学習指導）を展開

**C** 子供の学習状況を評価

**A** 授業や指導計画の改善

**C** 子供の学習状況を評価

学習目標の実現



■ 終末における、記録に残す評価  
これまでの【指導と評価】を踏まえ、単元における総括的な評価をします。目標を達成できそうにない状況にある場合は、その理由や次の学習を進めるための手立てを子供に伝え、子供が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにします。

## 授業づくりや授業参観の際に活用しよう！ 「授業参観のためのチェックシート」

子供の資質・能力育成のための授業づくりができてきているかどうか意識するために活用しよう！

学習指導案作成の際の確認したいポイントとして参考になるな。

授業参観や授業後の指導助言で活用しよう。



### 授業参観のためのチェックシート（学習指導案編）

- ☑ 児童生徒の単元のゴールの姿を明確に設定できているか。
- 学習指導要領などに沿って単元目標や単元の評価規準が設定されているか。
- 単元を通して身に付けさせたい「資質・能力」が確実に身に付くよう、見取りとフィードバックがセットになった指導と評価の計画が立てられているか。
- 学習指導案上に書かれている児童生徒の実態や指導の手立てなどは、単元目標の達成と関連付いているか。
- 本時案の目標は単元目標や評価規準と関連付いたものになっているか。
- 本時で求める児童生徒の姿（Bの姿）が具体的に想定されているか。

### 授業参観のためのチェックシート（授業参観編）

- ☑ ねらいとする「資質・能力」が育成されたか（育成に向かっているか）どうか。
- 「めあて」と「まとめ」は適切なものであったか。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善が図られていたか。
- 板書が児童生徒の思考を整理したり深めたりするものになっていたか。
- 各教科等の「見方・考え方」が働かされていたか。
- 学習活動や発問は単元目標に迫るものになっていたか。
- 児童生徒の発言やノート記述は評価規準に照らしてどのように評価できるものであったか（具体をどのように評価したか）。
- 「おおむね満足できる」状況（B）とするためにどのような手立てが工夫されていたか。
- 児童生徒の姿は本時の目標や単元目標に迫るものになっていたか。

次ページでは **ステップ4** の具体を紹介します。



岡山市立福田中学校

○第3学年 理科 単元名「力のつり合いと合成・分解」

単元の目標

- (1) 力のつり合いと合成・分解を日常生活や社会と関連付けながら、力の合成・分解についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (2) 力のつり合いと合成・分解について見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、合成・分解の規則性や関係性を見いだして表現すること。また探究の過程を振り返ること。
- (3) 力のつり合いと合成・分解に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

本時の目標（7時／全8時間）

今までの学習を生かして、日常生活で目にする力について、作図をしながら説明することができる。

単元構想（全8時間）

〈単元に入る前の生徒の実態〉  
見えない力をイメージするのは難しい。

子供の实態を踏まえた指導計画の作成

単元を通して日常生活にある力の合成・分解を説明できる表現力を身に付けることができるよう、学習課題を生徒にとって身近な話題や物に設定しました。また、前の時間の生徒の発言を図で表したり、校内や教室にある物の写真を提示したりして、学習と日常生活を結び付け、生徒全員がイメージできるようにしました。

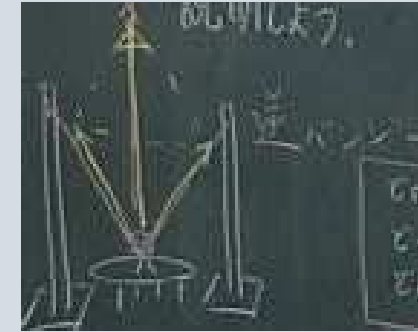


橋の構造・・・？  
想像しにくい。

目に見えない力について考えることは難しそうだ。学習内容と日常生活が結びつく指導の工夫をしよう。

本時の学習課題で提示した問題

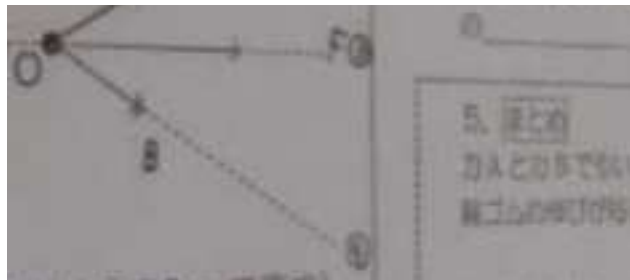
給食の食缶を相手の負担を軽くするために、相手と離れて自分の持つ角度を大きくした。この考えが正しいか正しくないか作図して説明しなさい。



本時（7時／全8時間）

〈生徒の実態〉作図を活用して力の合成・分解について説明することは難しい。

机間指導で、個々の学習状況の把握をし、必要に応じて支援をしました。



力の作図方法が十分理解できていない。まとめを記述できていない。

作図をすることで規則性や関係性を見だし、説明するには、段階を踏んだ指導の工夫が必要だな。



どちらの方向に力が働いているかな。

この場合、矢印の向きはどうなるの？



前の時間でやったところと一緒になんだな。

グループで説明を考える場を設定し、ホワイトボードを使って、自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで協同的に学ぶことができるようにしました。

まとめでは、生徒の説明を作図のポイントを押さえながら振り返りました。また、演示で生徒の説明の正しさを確かめました。



対角線の長さも長くなって！

この図から考えると、自分の負担は増えないのに相手の負担が増えているよね。



演示をして確かめよう。しんどののは2人のうちどちらかな。

作図の通りAさんだ！



■授業を終えて

【指導と評価】の一体化のサイクル

作図しながら上手く表現できなかったAさんにはワークシートやノートを見直して指導しよう。類似問題に取り組みさせて、この問題を定期考査で取り上げよう。

定期考査（一部）

4) 給食の食缶(20kg)を相手の負担を軽くするために、相手と離れて自分の持つ角度を大きくした。この考えが正しいか正しくないか考え、なぜそう考えたのか作図して説明しなさい。

【条件】  
- Aさんの持つ角度は変化しないものとする。  
- 作図するとき、100gの大きさを1cmとして作図しなさい。  
- 作図に用いた紙は汚さず大切にすること。

定期テストの記述式問題も活用して、「表現力」の育成を目指しているね。また、力のつり合いを身近なものとして実感する生徒も増えたよ。



重たい！

自分が離れると…